プラス思考で何でも積極的に

県中学校バドミントン春季大会で優勝

井上　博貴さん　13歳
三中

6月10日に行われたバドミントン県中学校春季大会・シングルで、見事優勝を勝ち取った。昨年の新人戦に続く栄冠だ。

「最初から優勝を狙っていました。前日の団体戦は準優勝で悔しい思いをしていたため、とてもうれしかったです」

小1の頃、両親が参加していたバドミントンクラブに付いて行くようになり、自然とラケットを握るようになった。現在は、部活動と地元のクラブで毎日のように練習に励んでいる。

「調子が悪くて嫌になるときもありましたが、今は結果も良く楽しめています。どんなときでも応援してくれる両親には、本当に感謝しています」

時間ができると読書でリフレッシュ。プロスポーツ選手の自叙伝を好んで読んでいる。考え方や競技への取り組みなど、自分に生かせることが多いと話す。

「イチロー選手の『今できることをする』という言葉が印象的でした。僕もしっかりと、今できることをやっていきたいと思います」

何事にもプラス思考で臨むのが信条。苦しい試合展開でも絶対に諦めることはない。また、練習にも勉強にも積極的に取り組む。その姿から先生や仲間たちからの信頼も厚い。

「今月行われる県総合体育大会で優勝し、関東・全国大会でも活躍できるように頑張ります」

将来は指導者としてバドミントンの楽しさを広めたいと話す。丁寧な指導でみんなから慕われる指導者になるだろう。

未来への贈りもの

本市収蔵作品

近藤嘉男
『港のマリア』昭和25年

油彩・カンバス
（130・5センチメートル×162・0センチメートル）

「港のマリア」というタイトルが示すように、港町を背景に、赤子を胸に抱く女性が中央に描かれています。カンバスの右奥をよく見ると、特徴的な三角屋根の建物や橋、時計の丸い輪郭などが昭和23年に制作された「作品A」と酷似していて、後ろ姿の人物は画家本人だと分かります。

その画家は近藤嘉男さん（大正4年―昭和54年）。堅町（現・千代田町）の砂糖問屋の長男として生まれ、小学生の時に油彩を始めます。10代の頃から地元公募展に入賞し、高校在学中から徴兵されるまでは二科展に出品しました。復員後は、新設された二紀会で作品を発表し続け、昭和22年に最高賞の二紀賞を受賞。期待の新人として紹介されました。

昭和20年代後半から30年代にかけては、本作品のように野田英夫や松本竣介の影響が見られます。写実を基本としながら、風景の断片を巧みに組み合わせて、幻想的な心象風景を表現しました。

また戦後は、広瀬川沿いの自宅兼アトリエで二紀会洋画研究所と子ども向け絵画教室「ラ・ボンヌ」、大人向けの「生活造形実験室」を開講し、延べ3，000人以上の生徒が巣立ちました。現在、アトリエを改修した広瀬川美術館（千代田町三丁目）では、近藤さんの作品が展示されています。

問い合わせは　文化国際課　☎898―5825

クローズアップ
CLOSE-UP

七夕まつりに前橋産並ぶ

7月5日から8日まで七夕まつりを開催しました。色とりどりの飾り付けで、中心市街地は華やかな雰囲気に。ことしは前橋産の食材を一堂に集めた農涼祭ｉｎ七夕も同時に開催。訪れた人たちは取れたて新鮮な野菜やジュースをおいしそうに味わっていました。

消防団員が訓練の成果を競う

7月1日、県消防学校で市消防団消防ポンプ操法大会を開きました。予選を勝ち抜いた20チームが参加し、ポンプ車からホースを伸ばして的に向け放水。日頃から訓練に励んだ成果を発揮しながら、的を倒すまでの速さや行動の正確さなどを競い合いました。

プールで夏を楽しもう

市民プールがオープンしました。6月30日の無料開放日は、気温も上がって絶好のプール日和に。水しぶきを上げながら元気に遊ぶ子どもたちをはじめ、家族連れなど多くの人が来場し夏の涼を楽しみました。ことしは9月2日㈰まで利用できます。

満開のアジサイに囲まれて

6月24日、荻窪公園でアジサイまつりを開催。見頃を迎えた1万6,000株の色とりどりの花を見ようと、多くの人でにぎわいました。だんべえ踊りやスタンプラリーなどのイベントを実施。訪れた人たちは鮮やかなアジサイに囲まれて楽しい時間を過ごしました。